

2020年8月31日  
前トロント事務所長  
酒井 拓司

## 新型コロナウイルス各種規制下の帰国について

### <帰国のフライト>

8月28日(金)トロント12:15発(AC111)バンクーバー14:01着  
バンクーバー発16:40発(NH115)  
29日(土)羽田着18:45

### <トロント出発時@ピアソン空港:見送りに来てくれた方々の動き>

- ①トロントのダウンタウンに借りていたコンドミニアムからリムジンサービスを利用して、ピアソン空港まで行き、第一ターミナル3階の出発ターミナルまで行った。見送りの人も同乗していたが、航空券を持っていない人はターミナル内には入れないため、外で待っていただき、私のみ搭乗の手続き、荷物のチェックインを済ませ、その後ターミナルの外に出て、見送りの人たちと話をした。
- ②見送りにには、私とリムジンに同乗した人達のほか、別途自分で車を運転して、空港の駐車場から私に会いに来ようとした人、家族に運転してもらって、空港まで見送りに来た人がいたが、前者については、駐車場からターミナルまでのブリッジを渡ったところまでしか行けず、出発ターミナルまで来ることができなかった。後者については、車で第一ターミナル3階部分まで来ることができたので(車は止めてもらえないため、運転していた家族が車をずっと動かしていた)、一緒にターミナル外で話をすることができた。
- ③私と同乗して見送りに来た人たちが UP エクスプレスでダウンタウンに戻りたい旨、3階出発ターミナルのセキュリティに伝えたところ、ターミナルに入って、エレベーターを使って2階に降りて、UP エクスプレスの乗り場まで行くよう指示されたため、私も一緒に行って、駐車場に車をとめた人とは、駐車場とターミナルを結ぶブリッジのところで、会って話をすることができた。
- ④ターミナル内に入るとき、マスクを着用せず、フェイスシールドのみ着けていたところ、マスクを着用するよう、セキュリティーから注意を受けた。

### <トロント出発時@ピアソン空港:チェックイン、セキュリティー、新型コロナチェックなど>

- ①チェックイン:これまで同様だが、荷物などに、他の人の手が触れないよう、キオスクによる自動チェックイン、荷物も自動機を使って預けることが推奨されていた。

②出国ゲートを入る(搭乗券の提示)とすぐに(セキュリティーに入る前)体温検査が行われた。写真を撮るような感じで、屏風のようなものを背に立って、カメラのような検温機が2メートル程度前離れて立っていて測定していた。フェイスシールドは外すよう言われたが、マスクは着用のままだった。

#### <トロント～バンクーバー>

- ① AC111便のビジネスクラスはほぼ満席だった。エコノミークラスについては、席の間隔をあける必要があるためか、ゲートにて座席の決定をしていたようで、一部の乗客は名前を呼ばれ、カウンターにて席を指定された搭乗券を受け取っていた。
- ② AC111便は定刻にトロントを出発し、定刻にバンクーバー到着した。バンクーバーでの乗り継ぎは、国内ターミナルから国際ターミナルに移動するだけ。国際ターミナル前のカウンターでは、行き先を聞かれ、「羽田」と回答しただけで、特に搭乗券、パスポートなどを提示することもなく通過した。
- ③ バンクーバー空港の国際線ターミナルは免税店、飲食店等も3～4割程度しか営業していなかった。
- ④ NH115便の乗客は30名程度(ビジネスクラス:3～4名)だった。機材はボーイング787で定員246名のところ、12%程度の搭乗率。

#### <日本到着～入国>

- ①機内で「検疫所からのお知らせとお願いとの書類が配られ、そこに含まれていた「質問票」、「申告書」、「健康カード」に、これまでの渡航先、日本での連絡先、健康状態などの記入を機内にて行った。羽田到着1時間前に、質問票等を事前に記入しておくようにとの機内のアナウンスがあった。
- ②着陸の30分ほど前に、「到着後検疫官より説明が行われるので、準備が整うまで機内で待機するよう」アナウンスが行われた。
- ③羽田には定刻より45分早い、18:00に着陸。ターミナルには18:05頃到着(144ゲート)。到着前のアナウンス通り、機内で待機。18:20頃キャビンアテンダントより案内があり機外へ。
- ④18:25、機外に出て、隣のゲート(143ゲート)に設けられた説明会場にて、着席して検疫官から、この後の検査の流れ等の説明を受けた。「検査結果が出るまでに2～3時間かかり、再検査となった場合にはさらに長く待ついただくこともある」とのことであった。
- ⑤18:30、142ゲートに設けられた検査会場に移動。質問票を係員に提出するのを待つ間に、ピアソン空港と同様のカメラのようなタイプの体温計にて検温。質問票提出後「唾液でのPCR検査」を受ける。試験管と漏斗が渡され、漏斗を介して試験管に唾液1～2mlを取る。採取は、パーテーションで区切られたゾーンで行う(選挙の際

の投票用紙の記入場のような感じ)。壁には正しい唾液の集め方、試験管に記された線までの唾液は集めるようにとの掲示があった他、唾液を出すために壁に梅干し、レモンの写真も掲示されていた。採取した試験管に栓をしてその場で検査官に提出。試験管に付された検体番号のシールのうちの1枚が「入国される方への検疫所よりお知らせ」に貼り付けられ、この書類は紛失しないようにとの指示があった。

⑥18:40、隣のゲート(141ゲート)に設けられた書類審査会場へ移動。順番に検疫官に「質問票」、「申告書」、「健康カード」を提出。検査官がその場で確認し、記載漏れ等なければ、受領される。

⑦LINEアプリ等の活用の同意を求める書類もあって、これに同意すると、居住する自治体(保健所)からの問い合わせ等ある場合スムーズに進むとのことであったが、私自身は入国時点で公私とも携帯電話を所持していない状態だったため、LINEは使用しないということで同書類は提出しなかった。自宅の固定電話を自己隔離中の連絡先として登録したので、保健所等からの連絡はそちらにあるものと思われる。

⑧18:48、書類審査会場から3階に上がって、146ゲート付近に設けられた検査結果待ちのスペースに移動。出発ゲートの待合スペースなので、各自備わっている椅子等に着席して結果の通知されるのを待った。電源なども多数あり、空港の無料Wifiも使えるので、多くの方がスマホやPCを充電しながら使用して、待機時間をすごしていた。

⑨検査結果が届くと、検体番号が日本語と英語で放送され、同時に係員が番号の表示された、A4サイズ程度のボードを掲げて、待合スペース内を歩いて、聞き取れなかった人にも伝わるよう努めていた。

⑩19:35、私の番号が呼ばれ、窓口に行って、検査結果の通知(陰性)を受けた。最後に2週間の自己隔離の場所までの移動手段の確認を受け、ピンク色の紙(検査陰性と記載、入国審査時に回収)を渡され、入国審査に移動。

⑪19:45、入国審査は検査結果を受けた人が順々に移動していくので、待つことなく、検査結果通知後に受け取ったピンク色の紙を渡して、瞬時に終了。手荷物受取所に着いた時には、すでに預けられた荷物は空港職員がまとめてカートに載せてくれていたので、それを押して税関を通過して、20時前には入国できた。到着した時間帯に他の便の到着もなく、バンクーバーからの便の乗客も30名程度ということもあり、着陸から2時間程度で入国ができた。

以上